

【足立区大学病院施設等整備費補助金交付審査会】議事録

会 議 名	令和4年度足立区大学病院施設等整備費補助金交付審査会		
開催年月日	令和5年2月28日（火）		
開催時間	午後5時30分 ～ 午後10時15分		
開催場所	東京女子医科大学附属足立医療センター 4階会議室		
出席状況	出席委員数：6名 欠席委員数：0名		
出席委員	酒井 雅男 委員 （会長）	芳木 亮介 委員	賀川 幸英 委員
	土田 寛 委員	長谷川 勝美 委員 （副会長）	馬場 優子 委員
申請者（ヒアリング等出席者）	東京女子医科大学附属足立医療センター 病院長、各診療担当部長、事務長、事務局		
事務局	衛生部衛生管理課		
審議事項	（1）審査内容について （2）項目1「財務状況」の審査 （3）項目2「補助の対象経費」の審査 （4）項目3「先進高額医療機器」の審査 （5）現地確認 （6）全体を通しての審議と採決		
1 開会から諮問まで	<事務局> ① あいさつ ② 配付資料の確認 ③ 委員紹介 （足立区長代理で長谷川副区長から賀川委員へ委嘱状交付） ④ 審議の進め方の説明 ⑤ 諮問 （足立区長代理で衛生管理課長から会長へ諮問書授受）		
2 審議事項 （1）審査内容について	※ 会議は非公開、議事録は要点のみ筆記 <事務局> 審査書の確認および審査項目、審査内容等について説明。 <■■■■委員> 審査項目3のN○2の最後の「かつ設置が行われている」について、		

	この後に現地確認にて設置確認をすることとなるので、契約が締結されているまでの確認とすべきではないか。 <全委員> それでは、審査項目3のN○2については「～購入に係る契約が締結されている。」とする。
2 審議事項 (2) 項目1「財務状況」の審査（申請者への質疑応答あり）	◆財務状況◆ <委員> 令和元年度から令和3年度までの3事業年度に係る財務状況を分析した。財務状況等の内容を総合的に斟酌した結論として、補助金交付を否定する程の重大な財務上の問題点はないものと判断する。 有利子負債依存度は過去の財務状況より変わらず、依然として高いが信用リスク悪化の兆候は見受けられない。 また、独立の会計監査人による監査報告についてもその内容に異常性は認められないため、計算書類の内容は信用に値するものである。 経営効率性及び事業成長性についての比率の動きは悪化傾向を示しており、原因はコロナの影響による患者数減少による収支の減少である。 しかしながら、悪化した分をコロナ補助金にて補填しているため、トータルで見たときに収支は問題ないが、令和4年度以降の決算数字について回復状況を注視しておくべきである。 特に患者数の回復状況や職員の採用状況については、法人の経理担当へヒアリングを行いたいと考える。 ～《事業者入室》～ 【患者数の回復状況について】 <申請者> 昨年度の1、2月は引っ越しの関係もあり患者数は激減したが、現在の新患者や手術件数、外来収入、入院収入などはコロナ前の水準へ回復している。 <委員> 今年開示される予定の決算数字にはコロナ前の水準へ回復した数字は反映されるか。 <申請者> 収入は反映されているが、収支で言うと単独で黒字化は厳しい状況である。これについては、もう少し病床稼働率を上げる必要性があると考えている。 移転前、移転直後の状況についてはコロナ禍の特殊状況であるため比較が困難であるが、移転の約3か月前より入院制限を行っていたため、前年度の後半からの病床稼働率は低かった。 しかしながら、戻りが当初の想定よりスムーズであり、令和4年1月の患者数が平均730名、入院患者が1日当たり174名であったが、今年度4月から12月においては平均来院患者数が819名であり、特に初診の患者数についてはひと月当たり2,000名を超える患者が来院している。

2 審議事項 (2) 項目1「財務状況」の審査（申請者への質疑応答あり）	また、紹介率についても85.4%と高い数値となっている。併せて、逆紹介率についても平均68.1%となっており、急性期病院本来の運営ができていると考えている。 入院患者についても現在の1日平均数は285名まで戻っており、特に手術件数がひと月当たり300件後半から400件以上となっている。 また、令和4年4月から12月までの手術件数として3,534件となっており、立ち上がりとしては非常にスムーズな状況である。 < 委員 > 現在の直営の病院数はいくつか。 < 申請者 > 5つである。 < 委員 > 足立医療センターは医療収入として全体のうちどれくらいの収入割合なのか。 < 申請者 > 年間で約130億円程度であり、割合で言うと20%程度を占めている。 【職員の採用状況について】 < 申請者 > 医療従事者の確保については、令和5年度の看護師の採用数は内定数で今年度に対して40名弱の増加予定である。 併せて、医師の人数についても今年度より増員予定である。 また、医師の働き方改革の一助として、医師事務の作業補助者、看護師の働き方を夜間の看護補助体制加算等を含めて取得をしており、医師事務もこれからより一層充実させていくことで、医師の働き方をサポートしていくような体制を構築している。 < 委員 > 医師の働き方改革については離職率を下げようとする働きであるか。 < 申請者 > 医師の離職率を下げようとするものではないが、看護師についてはより看護師業務に注力できることにより、離職防止につながるのではないかと考えている。 また、看護師の手当てについても注力している段階である。
2 審議事項 (3) 項目2「補助の対象経費」の審査	< 事務局 > 机上配付資料の別紙1「補助金交付申請書」、別紙1-1「先進高額機器整備内訳書」を用いて説明。
2 審議事項 (4) 項目3「先進高額医療機器」の審査（事業者の説明と質疑	～医療機器に係る説明～ ～《事業者入室》～

応答あり)	各医療機能について各診療担当部長より説明。 【機器番号1番について】 < 委員 > 機器番号1番は救命救急センターの機能強化のための設備との認識でよいか。 < 申請者 > その通りである。また災害時の運用という面でも考えている。 < 委員 > 月に何件くらい利用しているか。 < 申請者 > ほぼ毎日利用している。 【機器番号2番について】 < 委員 > 海外製のメーカーであるが、不具合が起きた時の対応はどうなっているか。 < 申請者 > 部品の在庫が国内に多々用意されており、基本的には12時間以内に復旧できるようになっている。 【機器番号5番について】 < 委員 > 実際にどれくらいの頻度で利用されているか。 < 申請者 > 月に80件～90件程度の検査で利用している。 【機器番号8、9番について】 < 委員 > 放射線技師は何名いるのか < 申請者 > 現在25名で、来年度より1名増える予定である。 【機器番号11番について】 < 委員 > この機器のみ購入費と工事費が別になっているが、なぜか。 < 申請者 > カメラ全体に係る費用がP.225のVの税込価格である。その内訳はP.227～237となり、P.227のE（施工費）の内訳がP237となる。 実際の施工に関してはソニーであり、併せて施工管理の必要性から大林組も入っている。そのため、カメラの配線等の関係から工事費が別途発生している。
--------------	---

	～機器の現地視察～
《 休 憩 》	
2 審議事項 (5) 全体を通しての審議と採決	< ■ 委員 > 機器番号 1 1 についてカメラ以外の別の部分の施工費が含まれているのではないか。 < 事務局 > その場合、委員の判断で適切な資料が提示されていないとしてその部分を除外することも可能である。 < ■ 委員 > それでは、機器番号 1 1 については購入費と工事費が計上されていたが、工事費については確認ができないため除外するということがか。 < ■ 委員 > 機器番号 1 1 については工事費が別の部分を含んでいるため工事費は除外するということとしたい。 < ■ 委員 > 機器番号 1 0 について、品名が「てんかん検査用ロボットシステム」となっているが、説明や実機を確認したところ手術用であるとのことであり、品名と齟齬が見受けられる。 < ■ 委員 > 売買契約書やパンフレットは「ロボットシステム」となっている。 < ■ 委員 > 申請では検査用で申請されているが、審査会にて説明を受け、現物を確認した結果、実際は総合的な治療用であったため、検査用を治療用と読み替えることとする。 ～審査書の記載・集計～ < 事務局 > 各委員の総合評価においては「適」といただいております、全体として「適」と思われる。 < ■ 委員 > 今回、足立区大学病院施設等整備費補助金交付条例施行規則第 5 条第 1 項に基づく補助金の交付の申請があった学校法人東京女子医科大学に対して、補助金の交付の決定は妥当であると思われる委員の方は挙手を願う。 挙手 6 名

	< 委員 > 結果として、6名中6名の賛成結果となり、足立区大学病院施設等整備費補助金交付条例施行規則第14条第3項により、当審査会は、今回、補助金の交付申請があった学校法人東京女子医科大学に対して、補助金の交付の決定をすることは妥当であると決する。 以 上
3 閉会	< 事務局 > 事務連絡